基礎を身に付け譜読みを簡単にするための考察　その２
～オリジナルピアノテキスト作成の試み～

An Analysis on the Simple Acquisition of Basic Piano Skills and Sight Reading: The Second Trial with an Original Piano Score

（2023年３月31日受理）

大　山　佐知子
Sachiko Oyama

Key words：ピアノ課題の簡素化，レベルの自由選択，　モチベーションの維持

要　　約

「基礎を身に付け譜読みを簡単にするための考察　～オリジナルピアノテキスト作成の試み～」の取り組みとして，令和４年度保育学科入学の１年生全員に対して，前期にオリジナルテキストを使用した授業展開をし，検証報告を保育学科紀要第４号に記載した。

例年１年次後期には，初心者ほど履修を止めていた「音楽基礎演習Ｂ」の授業を，音楽の苦手意識はありながらも，令和４年度生は，全員が履修したという良い結果が出た。前期にオリジナルテキストを使用した結果，超初心者でも継続意欲が持てるという検証になったと考える。この良い効果を維持出来るように，１年次後期でもオリジナルテキストを再度作成し取り組む必要があると考えた。そこで,まだ練習の習慣が身についていない学生の練習意欲,モチベーション維持をさせる工夫や，レベル差を考慮した課題への取組の仕方を考え実践した。また，初心者にとって半年では身につかないコード奏や，正しい指使いなど，繰り返し基本的な基礎の段階を指導することの効果を検証した。

１．課題設定の理由

令和４年度の前期,「音楽基礎演習Ａ」の授業について,「ピアノの授業は魔法の授業」と保育学科１年生の学生が出身高校の先生方に伝えてくれたとの報告を受けた。オリジナルテキストに初めて取り組んでいる中，嬉しい驚きの情報であった。その後，前期アンケートで，学生の満足度の高い結果を得ることができ，後期には全員が履修することになり，初心者から経験者までの全員が継続する意思表示をした。このモチベーションをいかに持続させるかが２年生でも継続して履修することに繋がるかどうかの分岐点になると考えられた。是非ともこの学生の意欲を持続させたいと，従来よりも細やかな指導，指針を示す必要があると考えた。

本校の音楽授業は，近年，選択科目であるため，1年生後期になると，２割程度（約20人）の人数の学生が履修を止める傾向にあった。実は以前はピアノの必要性を重視して必修科目扱いであったが，そうすると初心者が卒業必修なのに落としがちになる事例があった。卒業できなくなる可能性を最小限に考慮するため選択科目に変更をした経緯があったのである。

現在も継続履修を迷う学生は，追試科目が多く，卒業単位取得さえ難しい傾向にある。このような学生ほど，ピアノ経験のない超初心者である確率は高い。

10年くらい前までは,「保育者にはピアノの弾き歌いが必要なので履修しましょう。」という声掛け指導でほとんどの学生がまだ必要を感じ選択科目でも素直に履修する雰囲気があった。

その頃は，授業形態が，６人程度の学生を非常勤の教員も含み６～７人で学生１人を18分間ずつ個別指導を行

い，他の学生は見て聞いて学ぶ授業を行っていた。この時間は超初心者にとっては苦痛で，90分の中で待っている間に人の観察をどのようにするかもわからず，待つ時間を持て余していた。超初心者は時間を有効に使えないレベルなのだ。結局，自分で練習するしかないが練習の仕方もわからない超初心者は，脱落することが多く追試になり，追試も更に不可になる可能性があった。１年生で不可になったトラウマができると，２年生では最初から履修しないという安易な考え方を選択することが多かった。

つまり，選択科目になり，選択の自由度ができると，一番に超初心者が追試を恐れて履修から遠のいたのだ。最近はデジタル機器の発達でCDやPC等の活用を，現場でも広くされており，ピアノはすぐには弾けないので無理して弾かなくて良いと悪い意味で都合よく考えてしまうこともあるのである。

練習を積み上げることが出来ない超初心者に対して，この個人指導の苦痛の時間をなくし，授業のやり方を変え，オリジナルテキストの使用で，練習段階の視覚化に成功した。個人のレベルにより，積み上げた点数がわかり達成感も得られる形にした。

前期の取組で，超初心者でもわかりやすく練習でき，成果を出して継続意欲が出ている学生たちに，次の段階の目標が必要なのである。

評価の内容を明確に示し，個々の目標意識を持ちやすくすることが更にモチベーション維持に必要であると考えた。

特に超初心者こそ，ピアノの練習の継続意欲を２年間持つことが，技術向上になくてはならない条件の一つだからである。

2．研 究 の 目 的

『本来，技術を身に付け，自分で少し弾けるようになったと客観的に実感を持てるようになるには，早くても３年間は必要である。超初心者の人でも，上級者の人でも，“譜読みの仕方”は実は同じである。「最初から，全て間違いなく読む」という技術は，“譜読み”の基礎として，注意深く初心者の時に最初に身に付け，習慣化するべきものなのである。この“譜読みの仕方”の技術を，できるだけストレスなく身につけることが理想である。』

と，筆者は保育学科紀要第４号「基礎を身に付け譜読みを簡単にするための考察」の研究目的で述べた。“譜読みの仕方”の技術を，できるだけストレスなく身につけること，ストレスがないことが最重要であるのだ。譜読みできるようになれば，いくらでも自主学習できるのである。読めないから，音符を見るのも嫌気がさすのである。ストレスなく“読む”行為が当たり前になることを目的とする。更に“正しく読む”行為であることを目的とする。

3．研 究 の 方 法

授業科目：「音楽基礎演習Ｂ」（後期）

対　　象：保育学科１年生　2022年４月入学生
87人中　85人（後期履修者数＊）
＊２人将来の進路を変更したため履修しなかった。

方　　法：ピアノ技術の習得45分の中で行う。
（90分授業の内訳：ピアノ技術の習得45分，楽典他の知識技術習得45分）

保育学科　学籍番号　　氏名

音楽基礎演習Ｂ　①ピアノ　セクション・グレード制

※セクションABCグレードⅠ～Ⅵ、XYZグレードⅠ～Ⅲ　小テスト、（飛び級有）

		評価点	確認日	獲得点
セクションA				
グレードⅠ	マーチのメドレーより1曲目の右手は譜読みできる。（飛び級可）	Ⅰ 0.5		1
グレードⅡ	マーチのメドレーより1曲目の左手は譜読みできる。（飛び級可）	Ⅱ 0.5		
グレードⅢ	マーチのメドレーより2曲目の右手は譜読みできる。（飛び級可）	Ⅲ 0.5		1
グレードⅣ	マーチのメドレーより2曲目の左手は譜読みできる。（飛び級可）	Ⅳ 0.5		
グレードⅤ	マーチのメドレーより1曲目の両手は譜読みできる。	Ⅴ 1		1
グレードⅥ	マーチのメドレーより２曲目の両手は譜読みできる。	Ⅵ 1		1
第5回小テスト　適度なテンポで止まらない：3点、止まらない：3点、弾き直す：１点			**A合計　5　～（10）　点**	
セクションB				
グレードⅠ	各自の選曲の教本より　1曲の半分、右手は譜読みできる（飛び級可）	Ⅲ 0.5		1
グレードⅡ	各自の選曲の教本より　1曲の半分、左手は譜読みできる（飛び級可）	Ⅳ 0.5		
グレードⅢ	各自の選曲の教本より　1曲全部、右手は譜読みできる。（飛び級可）	Ⅴ 0.5		1
グレードⅣ	各自の選曲の教本より　1曲全部、左手は譜読みできる。（飛び級可）	Ⅵ 0.5		
セクションC			**B合計　2　点**	
グレードⅠ	各自の選曲の教本より　1曲の半分、両手で譜読みできる。（飛び級可）	Ⅰ 0.5		1
グレードⅡ	各自の選曲の教本より　1曲全部、両手で譜読みできる。	Ⅱ 0.5		
グレードⅢ	各自の選曲の教本より　1曲の４分の１、両手で止まらずに弾ける。（飛び級可）	Ⅲ 0.5		1
グレードⅣ	各自の選曲の教本より　1曲半分、両手で止まらずに弾ける。	Ⅳ 0.5		
グレードⅤ	各自の選曲の教本より　1曲の4分の3、両手で止まらずに弾ける。（飛び級可）	Ⅴ 1		1
グレードⅥ	各自の選曲の教本より　1曲全部、両手で止まらずに弾ける。	Ⅵ 1		1
第12回小テスト　適度なテンポで止まらない：6点、止まらない：3点、弾き直す：１点			**C合計　5　～（10）　点**	
セクションX				
グレードⅠ	カエルの合唱（コード奏）CG（使用。右手のレとファでCG（弾ける。1～2小節。	Ⅰ 0.5		1
グレードⅡ	カエルの合唱（コード奏）CG（を右手のレとファ、Fを右手のラで弾ける。3~4小節。	Ⅱ 0.5		
グレードⅢ	左手でC-F-C-G-C指番号を正しく。=60以上の速さで弾ける。	Ⅲ 0.5		1
グレードⅣ	左手でC-F-G-C指番号を正しく。=60以上の速さで弾ける。	Ⅳ 0.5		
セクションY			**X合計　2　点**	
グレードⅠ	ドーラ使用「かえるの合唱」の右手のみを指番号に気を付けて弾ける　指移動	Ⅰ 1		1
グレードⅡ	ドーラ使用「むすんでひらいて」の右手のみを指番号に気を付けて弾ける　指移動	Ⅱ 1		1
グレードⅢ	ドーラ使用「ちゅうりっぷ」の右手のみを指番号に気を付けて弾ける　指移動	Ⅲ 1		1
セクションZ			**Y合計　3　点**	
グレードⅠ	ドード使用「大きな栗の木の下で」の右手のみを指番号に気を付けて弾ける　指移動	Ⅰ 1		1
グレードⅡ	ドード使用「どんぐりころころ」の右手のみを指番号に気を付けて弾ける　指くぐし	Ⅱ 1		1
グレードⅢ	ドード使用「かたつむり」の右手のみを指番号に気を付けて弾ける　指変え	Ⅲ 1		1
			Z合計　3　点	
③後期試験：各自の進度に合った選曲１曲（ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム1、ソナタアルバム1、名曲集より）後期を通して1曲を止まらずに通してスラスラ弾けるように練習した状態で発表。・・・・・・・・・・・　後期試験　20点				

＜評価＞

①ピアノ点	授業内獲得点数＋小テスト点数（合格ライン18点）	合計	30　点
②楽典他点	授業内獲得点数＋小テスト点数（合格ライン18点）	合計	30　点
③後期試験	試験当日の演奏点（合格ライン12点）		20　点
④その他の点	取組姿勢・態度（合格ライン12点）	合計	20　点
			①②③④合計　100　点

図１　ピアノ技術習得授業45分　個人評価カルテ

図１の個人カルテを用いて，学生一人一人の進度を各自が把握出来るようにした。累積獲得点数が即座にわかり，合格点までにあとどのくらい必要か，練習計画を立て易くした。

○グレード制の個人カルテ使用：（上記　図１参照）
内容の点数化を視覚化する目的で，評価点を詳細に記載した表の提示を個別に行う。
○後期オリジナルテキスト使用：（後述）
超初心者も上級者も最初は“カエルの合唱”から取り組む。正しい指使いを全員徹底して習得することを目的とする。
○グループ分け：
学籍番号順で，１組，２組　６グループずつ
（各７～８人ずつ）
○小テスト２回：（後期の課題として行う）
第５回目,第12回目に小テスト（確認テスト）を行う。

４．実 践 の 概 要

「音楽基礎演習Ｂ」（後期90分授業の内訳：ピアノ技術習得45分，楽典他の知識技術習得45分）

ピアノ技術の習得45分についての実践の概要を述べる。この成果を受けて，残りの楽典他の知識技術習得45分でも，コード奏法を全員が出来るように指導しているが，相互効果についてはここでは述べない。

遅刻などで片方の45分の授業を受けられなかった場合は欠席とみなし，その回は評価の対象にならないとしている。

＜ピアノ技術の習得の目標＞

ピアノ技術習得の目標を，前期と同様，最低限①②③に定めた。基礎として必ず身に付けたい技術である。後期は特に，下記より③の指番号を守り正しく使うことを重視して指導した。

① 鍵盤を見ないで，譜面を見ながら弾く技術。
② “譜読み”の時,音符は左手（低音）を見て右手（高音）を見るという順番で，縦に下から上へ視線を動かすことを常に行って読む技術。
③ 指番号を必ず守って弾く技術。

＜授業の課題・評価＞

【課題その１】

後期試験課題曲は，ピアノ技術習得の45分で仕上げるピアノ曲，１曲である。

○ブルグミュラー25の練習曲より任意の１曲，ソナチネアルバム１またはソナタアルバム１より任意の単一楽章１曲，名曲集の中から任意の１曲を選び，通して弾く。

【課題その２】

ピアノ技術習得45分では，３種類の課題，①メドレー曲として２曲の演奏，②後期試験曲の譜読みの完了，③オリジナルテキストの課題を体験することを目標とした。

○マーチ２曲をメドレーとして通して弾く。（第５回小テスト）
個人カルテＡを合格する課題。
○後期試験曲を通して弾き，譜読み完了の確認をする。
（第12回小テスト）個人カルテＢ，Ｃを合格する課題。
○オリジナルテキストで個人カルテＸ～Ｚを合格する課題。

＜授業の流れ＞

授業内容について詳しく説明する。

全体の流れは，ピアノ技術習得45分×15回の中で，各自のペースでセクションＡから取組み，小テストを経て，Ｂ，Ｃへ進む。２回目の小テストを経て，Ｘ，Ｙ，Ｚへ進む。但し，各自のペースで練習しているので，上級者は２回目の小テスト前にＸ，Ｙ，Ｚへ飛び級で進むことも可能である。

セクションＡ:【課題その２】○マーチ２曲をメドレーとして通して弾く（第５回小テスト）ための練習進度である。

実は,「マーチ２曲のメドレー演奏」は夏期休暇中の宿題として毎年課している。現場で子ども達の行進する時などに使用する可能性のある課題である。第１回～４回は，夏休みの自主練習の課題復習と仕上げとして行った。

セクションＢ，Ｃ：【課題その２】○後期試験曲を通して弾き，譜読み完了の確認をする（第12回小テスト）ための練習進度である。

２段階にしているのは，超初心者の進度の段階を細かく分けているためである。例えば，片手ずつで，一曲の半分読めたら，１得点とするなどである。

セクションＸ，Ｙ，Ｚ：【課題その２】○後期オリジナルテキストで取り上げた弾き歌い曲のメロディーをそのメロディーに適した指使いで，テキスト通りに正しく弾けることを体験し，習得するための練習進度である。遅くとも第12回の小テストで，超初心者でも全員が試験曲の譜読みを完了した後，必ず体験する課題とした。

上級者でもメロディーに適した指使いを守らず，適当な指使いを自己流で弾き，スムーズに弾けずに苦労している学生が，意外と多いのが現状である。

全体として，超初心者ほど，各授業の回で，この流れの通りに到達目標を持ち，確実に練習を積み上げることを目指した。

上級者にとっては早く目標到達が出来れば，飛び級でテキストを終了し，余裕を持って，難易度の高い試験曲に取り組めるようにした。飛び級で次の進度に挑戦しても良いルールを取り入れていることは，上級者にとっても練習意欲が出ると考えた。

図１で示した，個別のセクショングレード制評価表の下欄には,授業全体の評価の割合を明確に提示している。

① ピアノ点：授業内獲得点数＋小テスト点数（合格ライン18点）30点満点
② 楽典他点：授業内獲得点数＋小テスト点数（合格ライン18点）30点満点
③ 後期試験：当日（試験期間）の演奏点（合格ライン12点）20点満点
④ その他の評価：取組姿勢・態度（合格ライン12点）20点満点

①のピアノ技術習得45分を頑張れば，最高30点，後期試験曲の③にも効果が期待出来るので，試験当日20点に迫る得点を取得する期待が高まる。

④も普段から真面目に授業で頑張れば，評価点数を上げることができ，この20点の獲得は魅力的である。取り組みの姿勢を評価するので授業中の練習を集中して行うようになると期待できる。

これは，②の授業評価を上げることにも繋がっているので，合格点の60点以上を取得出来る可能性が誰にでも見えてくる。意欲が出やすい個人カルテであり，効果があったと考える。

＜後期オリジナルテキスト＞

前述の，ピアノ技術習得で目標に掲げた，「③指番号を必ず守って弾く技術」に特化して，後期オリジナルテキストの課題を用意した。

前期の復習感も出るように，また，超初心者にも，ストレスなく始められるように，“カエルの合唱”から始めている。但し，CFGの伴奏をすぐ付けて弾く，コード奏法から始めることで，復習感を出した。“カエルの合唱”のコード奏法は，前期でも継続して確認していたものなので超初心者でも，全くストレスがないものとわかっていたので，敢えて取り入れた。

前期のオリジナルテキスト図２と，後期のオリジナルテキスト図３の冒頭ページを示し比較する。

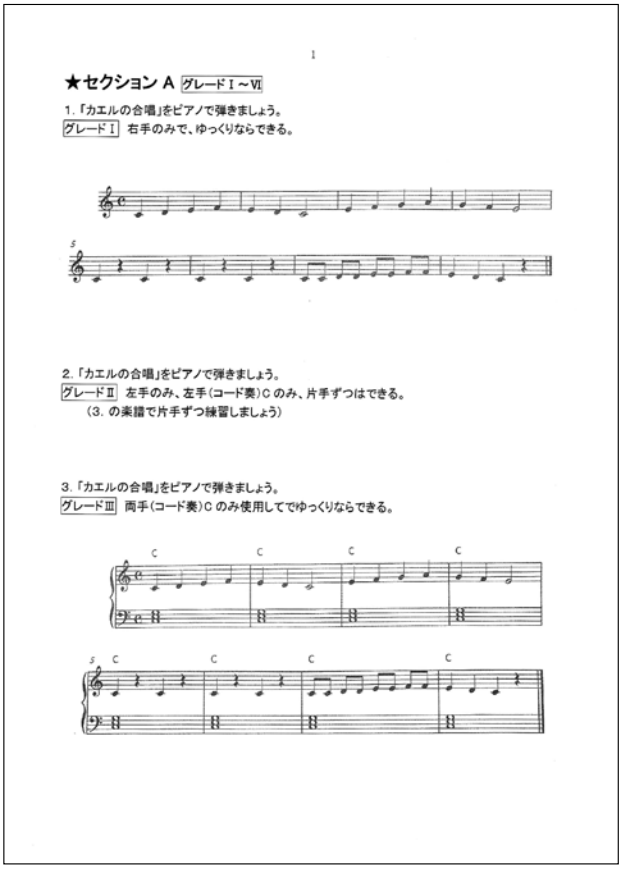
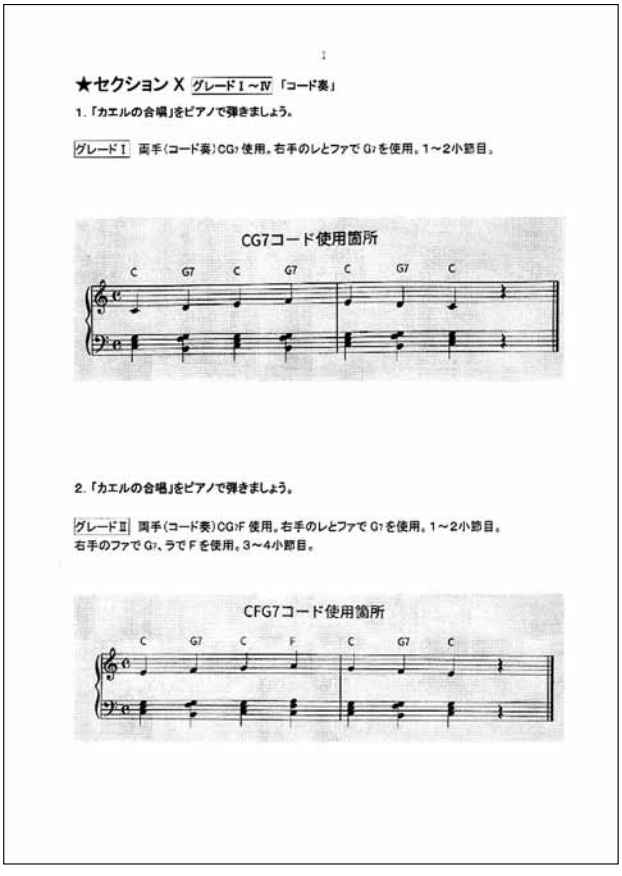


図２　前期オリジナルテキストＰ１


1

★セクションX グレードⅠ～Ⅳ「コード奏」

1.「カエルの合唱」をピアノで弾きましょう。

グレードⅠ 両手(コード奏)CG7 使用。右手のレとファで G7 を使用。1～2小節目。

CG7コード使用箇所

C G7 C G7 C G7 C

2.「カエルの合唱」をピアノで弾きましょう。

グレードⅡ 両手(コード奏)CG7F 使用。右手のレとファで G7 を使用。1～2小節目。
右手のファで G7、ラで F を使用。3～4小節目。

CFG7コード使用箇所

C G7 C F C G7 C

図３　後期オリジナルテキスト Ｐ１

前期のテキストのＰ１（図２参照）と後期の復習を兼ねたＰ１（図３参照）を比べると，レベルがグレードアップしているのがわかる。

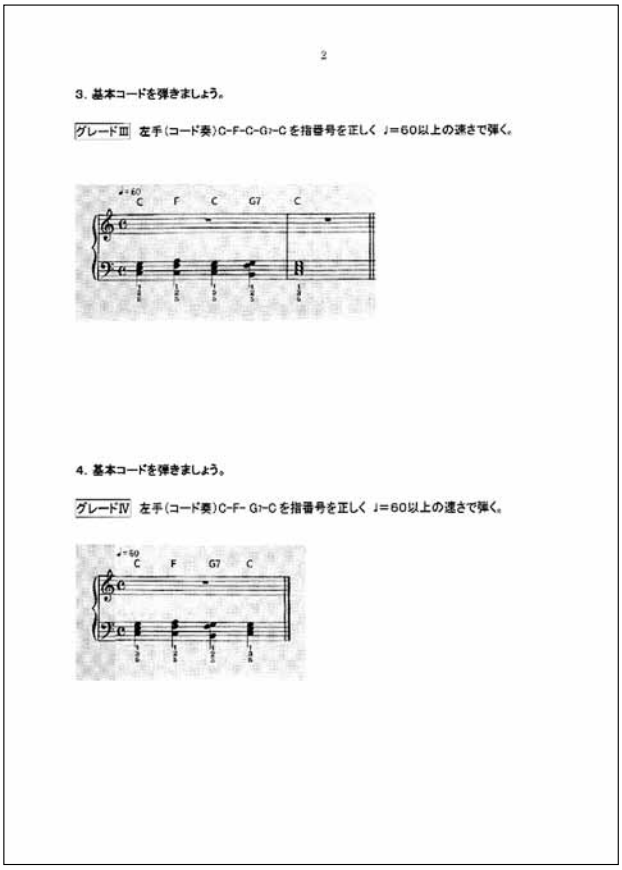
前期の図２のテキストでは，指番号もコードも付けないで自己流に読むことから開始した。コードもCしか使用しない課題を最初に用意した。「簡単」と感じさせることを重視したのだ。

後期には，図３のように，前期の復習として，”カエルの合唱“の冒頭１～２小節のメロディーには，いきなり２種類のCGコードを用いる楽譜を用意した。しかし，実は，２種類のコードなら超初心者もやる気が出るレベルであると前期に立証済みだったからである。続く２～４小節のメロディーには，３種類のCFGコードを用いて，コード奏ができるかどうかの復習課題を作った。前期からの積み上げが実感できる楽譜にしているのだ。

超初心者にとっては，ゆっくり復習をすることになり，上級者にとっては，確認で済むレベルである。

セクションＸで簡単な印象の導入を作った後，指番号に意識を向けるよう作っている。図４は，後期テキストのＰ２である。左手のコード進行を指番号を正しく使用して行う目的の楽譜である。

今後，弾き歌いを行う時に，全員の学生が正しい指使いで，基本３和音のコード奏法が出来ることを目指し，左手のみ改めて指番号を示し，各自が指番号のみ意識できる課題とした。


2

3. 基本コードを弾きましょう。

グレードⅢ 左手(コード奏)C-F-C-G7-C を指番号を正しく ♩=60以上の速さで弾く。

♩=60
C F C G7 C

4. 基本コードを弾きましょう。

グレードⅣ 左手(コード奏)C-F- G7-C を指番号を正しく ♩=60以上の速さで弾く。

♩=60
C F G7 C

図４　後期オリジナルテキストＰ２

ここから先は，上級者なのに，指番号に注意を払わない学生にとっても意識改革が出来るように，徹底して正しい指使いを学び直す練習内容を盛り込んだ。

セクションＹ，Ｚの内容を説明する。

オリジナルテキストで，正しい指使いができる基礎力を身に付けるよう指導するために，学生にとって興味のある弾き歌い曲のメロディーの指使いに特化した課題にした。右手のみ指使いを取り上げ，意識して習得し直すことを目的としたテキスト内容にしている。

セクションＹで，ド～ラまでの指使いの模範例を“カ

エルの合唱”，“むすんでひらいて”，“ちゅうりっぷ”のメロディーを取り上げて示した。

セクションＺで，オクターブド～ドを弾くための指使いの模範例を“大きな栗の木の下で”，“どんぐりころころ”，“かたつむり”の楽譜のメロディーを取り上げて示した。

コード奏を左手も一緒に弾けるかどうかは評価点には入れず，メロディーに対して，CFGを参考までに示しているが，自主練習に任せた。あくまでも右手メロディーの指使いを完璧に体験，習得できることを目標とした。前述したが，上級者でもメロディーに適した指使いを自分で考えることは難しいので，全員が体験すべきと考え取り入れた課題である。

この間に，第12回小テストで行った後期試験曲の譜読み完了の確認演奏内容を更に深め，余裕を持って演奏表現出来るように練習の回数を増やし仕上げを行うように指導した。

5．結 果 と 考 察

今年度は,全員が後期「音楽基礎演習Ｂ」の履修をした。後期は例年，２割程度の履修しない学生がいたが，超初心者が諦めないで継続履修をできたという結果である。超初心者にとっても前期に各自の努力の成果を実感できたことで，継続意欲が湧いたのではないかと推測する。

本来の試験課題である後期試験曲一曲を，ブルグミュラー練習曲以上のレベルで最後まで譜読みし，止まらずに弾ききることは，超初心者にとって難関課題である。両手で，やっと弾ける段階の人が，この課題をこなすのは，練習の仕方が全く想像できないレベルであるのに過酷な課題である。この試験曲の演奏状態だけで評価をするのはとても危険である。最初からピアノ技術の経験差が大きくある状態での評価方法は,不公平感も感じさせ,やる気を削いでいたと考えられる。

近年，授業内容に取り組む姿勢も評価に加え，全体の総合的な評価を行うことにしてから，個々の進度に対する努力を評価に還元できる範囲が広がった。

しかし総合評価でも，ピアノ初心者のストレスは解消できたとは言えず，中でも超初心者は,「授業が楽しくない」という感想しか持てず充実感や達成感が持てていなかったと言える。

筆者は，学生のレベルの低迷化に伴い，従来の「音楽基礎演習Ａ」「音楽基礎演習Ｂ」の課題の出し方に問題意識を持つようになっていた。学生にとってのピアノの練習の仕方がどんなレベルでも課題の出し方や目標が明確にわかるようにしなければいけないと考えるようになっていた。

超初心者でも上級者でも，身に付けたいことは“基礎技術”である。しかも，保育者に必要な直接的な技術は“弾き歌いが弾ける”技術である。

目的意識を明確にし，誰でも到達可能な目標を示すことで,「すぐできる」実感が生まれ，それはやがて「次もできる」気持ちに繋がるはずである。「次々にできる」ことが多くなり体験が積み上がり，いつの間にか継続出来たという理想の結果を導くことができると考えた。

後期のオリジナルテキストは，前期のオリジナルテキストに比べ，更に誰でもできる課題しか取り上げていない。誰でもできるが，何が大事か言われなければ全員はできない基礎を示している。簡単な基礎技術にこだわることが大切であると考え，特に簡単な目標を示した。これが，全学生のやる気を促したと考えている。また，２年生の実習でも，将来の現場でも使えそうな知っている弾き歌い曲に特化して，課題を作成したことも，必要性を感じさせ，また，学生の「できる」意欲を良い意味で刺激し，やる気のモチベーション維持になったと自負している。

しかし特に注意すべきは,“譜読み“の技術指導である。繊細に丁寧に指導しなければいけないもので，自然に身につく例は１万人に一人いるかどうかと思うほど“譜読み“の技術が無意識に正しく身につくことは稀で，音楽業界でも「難しい」の一言で未だに個人任せに据え置きされている問題であるからだ。

それでも筆者は，“譜読み“が当たり前にできるようになることが望ましい姿勢であると考えている。そのためには，まず「自分で読める」と思う印象を持つことが大切だと考えている。

例えば知っている“カエルの合唱”の曲をピアノで弾く場合，音符を「読める」とこんな音になると，誰でも

頭の中でメロディーが「わかる」ので，鍵盤上を弾いて探すことが出来，実はあまり楽譜を見ていなくても誰でも知っているから弾けるということが入口で良いと考えるのである。「弾けた」達成感を味わえることが大切であると考える。知っているメロディーが先に頭に浮かび，その楽譜が後から視野に入る順番で，音と楽譜が結びついても，まずは「すぐできた」「次もやれるかも・・・」というように意欲が湧くことが大切だと考える。そういう課題を実践していきたい。

習い事をする時を思い浮かべると，最初は指導者がピアノなら新曲を弾いて見せたり，習字ならお手本を書いて見せたりし，生徒は出来上がりのイメージを聴覚的に，視覚的に受け止めながら練習し，その繰り返しで習得していくものであるからだ。

超初心者ほど，目の前の楽譜は，鍵盤のどの場所で弾き，どんな音になり，どんな風に仕上げたら良いのか，沢山の例を見たり聞いたりして，まず「わかる」を増やす必要があるのである。

６．アンケートの結果

後期も前期同様，オリジナルテキスト使用についてのアンケートを行った。

今回は，指使いを守ることに特化していたが，技術のレベルを問わず，超初心者にも，上級者にも効果があったと考える。

記述を必須にしていなかったが，自由記述の欄で回答した学生の感想を紹介する。

後期試験曲の選曲をａ～ｆで問い，それぞれの回答を示す。

※ａ～ｆのレベルは，以下の内容である。

ａ．ブルグミュラー　１番～９番の中の１曲
ｂ．ブルグミュラー　10番～19番の中の１曲
ｃ．ブルグミュラー　20番～25番の中の１曲
ｄ．ソナチネアルバムの１番～10番の中の１曲から一つの楽章
ｅ．ｄ．の10曲以外でソナチネアルバム，又はソナタアルバムの中の１曲から一つの楽章
ｆ．　その他，名曲集より１曲

＜アンケート回答より感想の抜粋＞

レベルａ：

・指のコードを意識しながら弾くことが初め難しくまた，弾き歌いになると歌うことに意識が向いたり逆に弾くことに集中して声が小さくなるのでこれからもこの課題をクリアできるように頑張っていきたい。
・指使いが変わるのが苦手なのでそこを多く練習できるのが良かった。
・ピアノが苦手なので助かります。
・正しい指使いが分かって弾きやすくなった。
・指使いを意識したメロディー練習は思ってたよりは弾けたのでよかった。気を抜けば間違えるので何も見なくてもすらすら弾けるように頑張りたいと思いました。
・カエルの合唱を弾くことによって，CFGのコードをマスターすることができるから，たくさんの弾き歌い曲が弾けるようになった。
・ピアノは久しぶりにやると覚えてないから定期的に繰り返すことによって覚えるのだなと思いました。
・基礎となるピアノの動きをかえるの合唱で何度も練習をし，指や鍵盤を見ないで素早く動かすことが出来た。

レベルｂ：

・弾き歌いなんて私には無理だと当初は思っていたが，レベルも本人に合わせて上がっていき徐々にではあるが弾けるようになっていった達成感が味わえ，やれば出来るようになるというやる気の向上にもつながりとても楽しく練習していくことが出来た。
・全部指使いが書いてあるのではなく，どのように弾けば指が上手く使えるかを書いてくれていたので，分かりやすかった。
・指使いをあまり意識して弾いていなくてすごく弾きづらかったりするけど，指使いを意識してひくことですごく弾きやすくなった。
・やりやすいレベルから教えて貰えたので，ピアノをたのしくすることができました！
・指使いに注意して弾けるようにしておくと保育でも使えるので練習出来てよかったです。

レベルｃ：

・正しい指番号で弾くことで，自分が弾きやすくなる。
・少しずつレベルアップした楽譜だったからやっていくうちに出来るようになることができた。

レベルｄ：

・指使いに気をつけようと心がけれるテキストで，とても分かりやすかったです。
・指あんまり考えてなかったこともあったけどこれ使うことで考えて弾けた。
・正しい指使いで自分が弾きやすかった。
・指使いに気をつけて弾くと初めは難しく感じるけどなれたら簡単になるからこれからも指使いの指示に従おうと思う。
・指使いを意識したら，簡単な曲も難しく感じた。でも，正しい指使いだと弾きやすいから，これからも指使いは意識していきたい。
・指使いをあまり意識して弾いていなくてすごく弾きづらかったりするけど，指使いを意識してひくことですごく弾きやすくなった。
・かたつむり難しかったけど，左手無かったから指番号だけに集中してできてよかった！

レベルｅ：

・やはり，正しい指使いをすればスラスラとなめらかに弾けると実感した。
・あまり指使いを見ずに自分のやりやすい弾き方で弾いていたけど，メロディー練習をした時に指使いは大事だと思った。

レベルｆ：

回答なし

ほとんど全レベルの学生が,指使いの大切さを実感し,これからも気を付けようと考える機会になったということがわかった。

レベルａの初心者43人の中には，４名「難しい」「難しかった」「前を見て弾くことが難しかった。」「最後の２曲の指の移動が難しかった」と回答があったり，無回答が５名あったりした。しかし，これらの苦労していた初心者の学生達も，最後には全員，正しい指使いの使用を体験し，授業内で合格点に達している。その他のレベルａの学生は，前向きな感想を述べていた。

今回，最も重点を置いていた,「正しい指使いの譜読み」は，前述のレベルａ全員の学生の達成感はないものの，全学生の８割程度の学生には，意識の中に「指使いの大切さ」が浸透したのではないかと考えている。

今回のアンケートで前期と全く同じ質問を行った比較を２例示す。後期の回答により，基礎を繰り返しすることの効果を確認するためである。

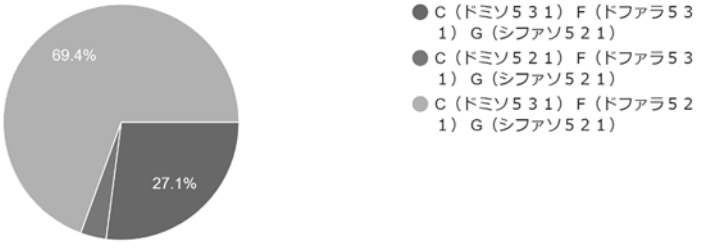
下記の図５～図６に，円グラフで，CFG和音の左手の指番号の浸透率とコードCFGが弾けるようになった確率を前期と後期の正解率で示す。

前期よりCFG和音の左手の指番号の浸透率は5.6％増だった。コードCFGが弾けるようになった確率は9.7％増だった。

筆者は，前期の復習なので100％の正解率を期待していたが，約半数以上が初心者という現状の中，基礎を身に付けさせる指導は，時間と手間のかかることだと改めて実感した。学生に合わせたテキストの必要性を益々感じている。今後もこの取り組みを継続し，卒業時には履修者100％の正解率を目指したい。

Ｒ４前期アンケートより

③カエルの合唱の左手の指使いは正しい使い方を...ましたか？左手の正しい指番号を選びましょう。
85 件の回答



Ｒ４後期アンケートより

②カエルの合唱の左手の指使いは正しい使い方を...ましたか？左手の正しい指番号を選びましょう。
84 件の回答

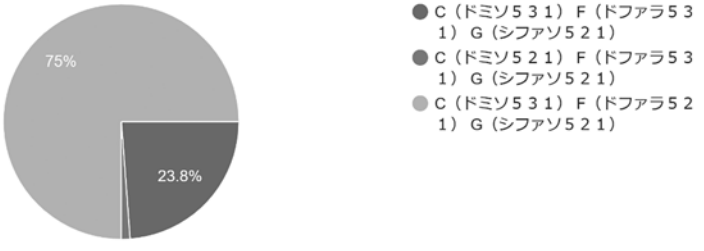


図５　“カエルの合唱”の左手コードの指使いの浸透率

Ｒ４前期アンケートより

②このテキストで、カエルの合唱に使った左手のコード３種類は覚えましたか？
89 件の回答

Ｒ４後期アンケートより

①このテキストで、カエルの合唱に使った左手のコード３種類は覚えましたか？
84 件の回答

図６　“カエルの合唱”の左手でCFGコード３種類を使用できる浸透率

7．今後の課題

このオリジナルテキストを１年間使用することで，ピアノ技術の習得がストレスを減らして簡単にできると感じさせ，練習を持続する意欲を持たせることができることを検証できたと考えている。

少しずつではあるが，超初心者でも，上級者でも，どちらにも効果のある方法を，現状のレベルに合わせて取り組みを続けていくことが必要だと益々感じている。基礎技術の確認や意識改革ができていることが，アンケートで明確になり，オリジナルテキストの内容の方向性は，学生に寄り添ったものになっていると考えられる。

新１年生には，現在の，課題の出し方には，まだまだ修正の余地があるので，更に課題出題の時期の変更や，初心者でも無理のない練習の積み上げができる個人カルテの作成を試みたい。また，残念ながら，超初心者の数名は，授業内だけの指導で後期試験曲課題を習得できない状態にあったため，個別に練習計画を相談し，補助した経緯があるが，これは本来良い指導の形ではないと考える。できるだけ，超初心者でも授業時間内に自主学習でこなせる練習計画の目標を示し，個々の練習がスムーズにできる形を模索したいと考える。

新２年生においても，ここまで，オリジナルテキストの効果があって継続できている面もあると考えられるので，ピアノ技術の修得を更に確実なものにしていくための新たなテキストと個人カルテの作成を工夫する。

新２年生全員がクラシックのピアノ曲を1曲演奏できる状態になった現状を，２年次の前期では，いつでも弾ける状態に維持させる。つまり，レパートリーとして弾ける１曲になるよう身に付けるプログラムを作成し，そうすれば就職試験対策にも即対応できる。また，保育者として，いつでも弾き歌いができるレパートリーの確保も必要で，１年次では行っていない歌唱力の強化が２年次としては大きな課題であり，必須である。

新１年生と新２年生全員にとってのピアノ技術習得の授業が，限りなくストレスのない充実した内容になり，全員が目標到達感を得られるよう今後も工夫をし，検証していく所存である。

参　考　文　献

大山　佐知子　2022　「基礎を身に付け譜読みを簡単にするための考察　～オリジナルピアノテキスト作成の試み～」 保育学科紀要 第４号 pp. 1～10